

核兵器禁止条約が1月22日に発効

核兵器がない世界の 始まりに向けて

被爆者の 思いを知る

シリーズでお伝えしている「核兵器禁止条約」。先月号では、条約の基本的な内容をお知らせしました。

今回は、いよいよ条約発効の月となることを受けて、被爆者の皆さんに核兵器廃絶への思いや今後期待することなどをお聞きしました。

この条約は、被爆者の長年の訴えが源流となって、この流れがやがて世界を巻き込んだ大きなうねりとなって成立し、発効まで結びつきました。

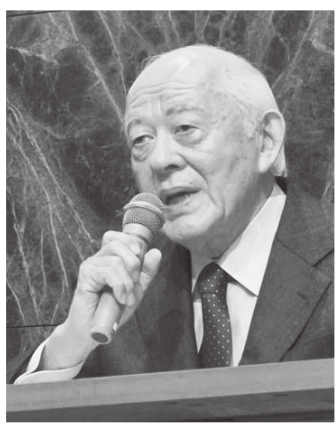
今を、そして未来に生きる私たちのために、核兵器廃絶を訴えてきた被爆者の思いを知り、つないでいきましょう。



12月号の
記事はコチラ



「平和の原点は人の痛みがわかる心を持つこと」と訴えた吉田勝二氏



「核兵器廃絶には、感性と理性が必要だ」と訴えた土山秀夫氏



写真提供：外務省

「こんな苦しみは、もう私たちだけで
たくさんです」と訴えた谷口稜暉氏



長崎新聞社提供

核兵器禁止条約発効記念行事

条約発効を記念し、条約の意義や、条約を未来に向けどういかしていくのかを語り合うイベントです。直接会場へお越しください。なお、長崎、広島、東京をオンラインで結びます。

【日時】 1月23日(土) 午後3時～4時30分

【場所】 長崎原爆資料館ホール

【主催】 「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会

【共催】 長崎市

【問い合わせ】 平和推進課 (☎ 844-9923)

【その他】 新型コロナウイルス感染症の状況によって内容を変更する場合があります。

被爆者の訴えが核兵器禁止条約の源流に。

被爆者の思いをつないでいこう

●語り部 八木 道子さん

「^{むこ}惨い核」を盾に、私たちのくらしや「命」が脅かされる世の中であってはなりません。「核なき世界」の実現を目指し、若い世代に語りかけ続けています。

●語り部兼平和案内人 池田 道明さん

草の根活動がこれからも重要になります。大人の皆さんにも原爆に関する具体的な内容などを正確に知ってもらい、子どもに話をしてほしいですね。

被爆地長崎の思いや歩みなどお聞きしました

失望感に包まれる時期もあった

1970年に発効した核不拡散条約（NPT）や、ソ連崩壊による冷戦終結など、核保有国は核を減らす機会がありました。核抑止論などを背景に実現できませんでした。そのような核軍縮の停滞期には、私たち被爆者にも失望感が漂い、悲観的になることもありました。核兵器のない世界に向かえない…、歯がゆい思いがありました。

それでも私たちは絶対に諦めなかった

そのような中、核兵器を使うことによる地球環境への影響が、科学的にも研究されるようになりしました。例えば核戦争が起これると、核爆発は粉じんを成層圏まで巻き上げ日光を遮るため、農業が破綻し、世界が数十億という規模の飢餓に陥るとも言われるようになりました。また、被爆者のがんや白血病など健康障害についても終わりが見られませんでした。

地道な取り組みが条約発効の力に

これまで多くの被爆者と関係者が核兵器廃絶に向け地道に取り組んできました。被爆者の皆さんと一緒に、「ヒバクシャ国際署名」を進めましたが、長崎県では人口の三分の一以上となる、50万筆もの署名をいただきました。核兵器は禁止すべきということを理解していただき、これほどの数が集まったことは、とても感慨深いものでありました。

発効後も訴えの本質は変わらない

条約の発効は核兵器廃絶に向けた大きな一歩です。今後1年程度でさらに批准国が増えれば、核保有国にインパクトを与えられるのではないかと思います。そのためには、今後開催される締約国会議などで、いかにして日本政府や核保有国に対して条約への参加を働きかけていくかが重要です。また、市民社会が声をあげ、国を動かさないといけないと思います。

核兵器はいらないと言える世界を

若い世代の皆さん、核兵器は人の心と体を傷つける上に、環境汚染や農業破綻など、さまざまな影響を地球規模で及ぼします。

被爆者の声に耳を傾け事実を知る、そして平和教育で物事を正確に理解して、考える力をつけていただきたい。被爆100年の時に世界中の皆さんが今よりもっと、「核兵器はいらない」と言える世界になることを期待しています。

また、世界には核兵器以外にも新型コロナウイルスや気候変動など、人類に立ちほだかる問題があります。これらを解決に導く共通点は、対話、協調、信頼の醸成です。みんな連携して平和な世界を目指しましょう。

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会
共同代表 朝長 万左男さん